

漂着物の季節

冬、石狩市沿岸は西からの季節風にさらされます。特に北西の強風は、昔から「タマ風」、「タバ風」あるいは「タンバ」とも呼ばれ、時化や吹雪を起こす、あまりがたくない風です。そのせいかどうか戦前では、石狩ではこの風が積丹半島方向から吹いてくるので「寿都者」と呼び、浜益付近では「石狩者」とも呼ぶこともあったと伝えられています。



砂丘の風資料館では、これまで採集した漂流物を展示しています

アルミと鉄浮き



ガラス浮き

また、この風は多くの漂着物を吹き寄せる風でもあります。日本海を漂流し、石狩市沿岸に漂着する漂着物は年中見られますが、やはり冬季は格段に多くなります。

この連載ではすでに、漂着物について何度か取り上げていますが、石狩沿岸の漂着物で目立つのは漁具です。特に浮きは、発泡スチロール、プラスチック、ガラス、アルミ、鉄、木の皮があり、多種多様です。これらは日本ばかりでなく、日本海を取り巻く国々のものが混じって国際色豊かです。国籍は、浮きに付いている文字や記号で識別されます。しかし、アルミ、鉄、木の皮の浮きには何

も書かれていない場合も多く、経験的には日本のものではないことは明らかですが、どこの国のものか不明です。

しかし、こんなとき長年、全国各地で漂着物を観察している人たちが編集した漂着物辞典や情報を元にその国籍を推定することができます。これらの本などからアルミ、鉄の浮きはロシアで、木の皮(白樺)のものは韓国あるいは沿海州付近のものらしいと分かりました。単なる浮きでも、調べてゆくと意外に奥が深いものです。

最近、漂着物採集をする人が増えていますが、ガスボンベや医療廃棄物など危険物の漂着も見られますので、くれぐれもご注意ください。

* * *

いしかり砂丘の風資料館では2月に石狩浜でビーチコミング(漂着物採集を予定していますのでご参加ください。

(石橋孝夫)



木の皮の浮き

漂着物関係の記事は、いしかり博物誌第7回、第32回、第49回、第63回、第72回、第75回、第79回にも掲載されています。

- 文化財課・いしかり砂丘の風資料館 ☎62-3711
✉bunkazaih@city.ishikari.hokkaido.jp
- 石狩浜海浜植物保護センター ☎72-3240
✉ihama@city.ishikari.hokkaido.jp